



なぜか「^{おご}驕れる者久しからず」が 脳裏に浮かぶ今日この頃

オーテック電子株式会社 営業部企画担当次長
総合防犯設備士委員会委員長 総合防犯士会 (ASES)

武富 正隆



昔、実用化開発部門で日夜「カット・アンド・トライ」に似た実験を繰り返し、より良いデータを出して製品実用化にこぎつけるといった仕事をしていた時期があります。

実験を繰り返して実験式を導き出し、それを基にして更に実験を重ねるわけで、やればやるだけ多くのデータが集まり、それらを分析しては更により良いデータが出せるように実験に励んでいましたが、あらかじめ実用化のための期限が決められていて無期限に実験を続けるわけにはいかず、ある時点で妥協しなければなりませんでした。

良いデータがなかなか取れず、途中で投げ出したくなることも度々ありました。このような経験をしてきた者として、世の中に新製品を送り出している研究者・技術者・プログラマーの方々のご苦労が良く分かるつもりです。昔、「安かろう、悪かろう」製品を作っていたわが国が、今は「高品質」製品を作り出して世界中から技術立国として認められています。その陰には他社、他国よりも、より良い製品を作り出すことに日夜努力をされてきた技術者等がいたからと思っています。

最近、原発の過酷事故、米軍輸送機「オスプレイ」の墜落事故、電子書籍端末の不具合多発等のニュースを見聞きするにつけ、「品質」よりも「スピード」や「経済性」が求められている

のかなと思わざるを得ません。確かにグローバル化した今日、世界との競争に打ち勝っていくには品質よりもスピードや経済性が優先されているのかも知れません。

孫子に「巧遅は拙速にしかず」（仕事の出来が良くて遅いよりも、たとえ出来は悪くとも速くできるほうが良い）という格言がありますが、価格に見合った品質の製品をいかに早く世に出すか難しいところだろうと思います。しかし、ここで決して忘れてはいけないことは大げさかも知れませんが「命より尊いものは無い」ということです。人命に関わるような製品の開発や運用に関わる人達には、それが故障したり破損した場合の影響の大きさについて常に心に刻んで仕事をしなければいけない、重大な責任があると思います。

原発の過酷事故そのものについては多くの専門家が分析・評価して報告書が出されていますのでここでは敢えて触れませんが、事故が二度と起こらないように対策が立てられることを見守るとともに、使用済核燃料、ガラス固化体、放射性廃棄物の最終処分地が決まっていない状態、見切り発車状態が続いていることにも大いなる関心を持ち続けるべきでしょう。エネルギーセキュリティ、CO₂、失業、経済性、国際競争力等々、考えなければならないことは山積し

ていますが、次世代に「ツケ」を残さないように、過去の「公害」と同じようなことにならないようにしていかなければならないと思います。

米軍輸送機「オスプレイ」の墜落事故については「副操縦士の操縦ミスで、機体にはなんら問題無い」と機体の安全性が強調されています。この弁明には大いに疑問を感じています。「人」は完璧ではありませんし、「人」は間違いを起こす、ということは昔から言われてきたことで、誰も否定する人はいないと思います。

安全工学の世界ではこのために「フール・プルーフ (fool proof)」とか「フェイル・セーフ (fail safe)」という考え方が導入されて久しく、人が間違った操作をした場合や、機械が故障した場合など、どんな場合でも「安全側」に作動するように作られているし、作られるべきです。人のせいにするのはあきらかに意図的で、誠実な対応とは到底思えません。また、「マニュアル違反」とのことですが、「マニュアル」も人が作るもので、完璧なマニュアル作りを目指していてもどこかに不完全な個所がありえます。今回の原発過酷事故の緊急時対策マニュアルにしても、大津波襲来時の避難マニュアルにしても、オスプレイの操縦マニュアルにしても、ありとあらゆる事象をすべて網羅して作られてはいなかった結果、手遅れになったといわざるを得ません。仮にマニュアルが完璧だったとしても、常日頃、マニュアルに目を通し、訓練をして体で覚えておかなければ「いざ」というときにマニュアルどおりにはできないと思います。

電子書籍端末の不具合については、まさしく「巧遅は拙速にしかず」を地で行ったようなもので、品質よりも他社、他国との競争を意識したスピード重視の結果だろうと思います。しかし、電子書籍端末のみならず、パソコンにしても同

じで、基本ソフト (OS) やアプリケーションソフトの開発者は、それこそ寝る間も惜しんでソフトウェアを作りこんでいると思いますが製品化には期限が設定されているはずで、期限内に完全無欠なソフトを作ることは難しいのでしょうか。製品として世に出したあとに不具合が数多く出てきたり、コンピュータ技術に優れた能力を持った世界中のハッカーによってソフトの不具合を突いたハッキングがあとを絶ちません。

原発の過酷事故にしても、オスプレイの墜落事故にしても、電子機器の不具合にしてもいずれも優秀だが完全無欠ではない人が関与しています。

人は時として過ちを犯すことがあるということは、安全・安心を考える上でも大変重要なファクターとして考慮しておかなければならないと思います。その上で、安全・安心を確保するにはどうすればよいのか？「物」よりも益々「人」について深く考察して「物づくり」に励まなければ、人のことが分かったような気になって人に対する考察がおろそかになると、人が生み出した物によって人が滅ぼされるときがくるかも知れません。なぜか「驕れる者久しからず」が脳裏をよぎります。

すべての物、システムの安全・安心を考える上では、人の多面性、物の多面性、あるいは自然現象を理解してハード、ソフト両面での安全対策を講じておくこと、制御できない物は作らないことなど、謙虚な物づくりが必要ではないでしょうか？